

にしみたか学園



にしみたか学園

様式6	平成29年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成	
	○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	・主体的に生きる自覚と態度の育成 ・家庭・地域等との連携の推進	
取組	・小学生と小学生、小学生と中学生の交流活動の充実を図る。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、チャレンジ精神を育む。 ・児童生徒代表者会議を充実させ、自治的・実践的な態度を育成する。 ・基本的生活習慣の確立 ・食育の推進 ・地域とのつながりを重視した活動	
成果		課題と改善方策
・交流活動は計画通り実施できた。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育は、総合的な学習の時間の目標である「人との関わりを通して」を受け、「新しい価値への挑戦を通して、チャレンジ精神・積極性・探究心・創造性を養う」を目標に取り組んだ。 ・基本的生活習慣の確立については「学園評価」の「生活リズムを整える」の各項目とも高評価であり、身についている様子が伺える。 ・地域とのつながりを重視した活動については、「学園評価」で地域からの回答は70%以上が好意的評価である。		・第二中運動会での小学生種目の在り方⇒当日の人数確認が必要ないような種目を考える。 ・児童生徒代表者会は、9月は中学校生徒会の新体制発足直後で準備不足⇒日程を少し遅らせ開催する。 ⇒具体的な内容で話し合うことが出来た（例えば運動会種目、二中紹介での質問内容等） ・学園研究の重点である「伝え合う」とのつながりを重視し特にプレゼンテーション能力の育成に取り組めた。⇒次期学習指導要領に向けてキャリア・アントレプレナーシップ教育の位置付けを明確にし、準備を継続する。 ・各校数名ではあるが、基本的生活習慣が未確立の児童生徒が存在する。⇒関係機関とも連携をとりながら個別対応が必要である。 ・地域行事への児童生徒の参加は少ない。休日や勤務時間外の教員の対応は課題⇒相互理解を深めていく。

検証項目	(2) 学校運営について	
	○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	・学園研究会の充実 ・経営会議・拡大経営会議・主任会・運営委員会の計画的開催	
取組	・「自ら考え、表現し、伝え合う児童・生徒の育成」を目指す。 ・全会議日程に基づき開催	
成果		課題と改善方策
・「自ら考え、表現し、伝え合う児童・生徒の育成」を目指した学園研究会を年間8回共通理解のもと行えた。探究学舎代表宝槻先生から「アクティブ・ラーニング授業づくりに向けて」のご講演をいただき教員も体験することができた。また、18名の講師をお迎えした研究授業は、目標の達成のために寄与することができた。 ・全会議日程に基づく開催 学園経営会議は、計画変更が多くあったものの臨機応変に開催し密な連携を図ることができた。		・3年計画の3年目であり、協議会の進め方や指導の視点も明確かつ共通化でき一定の成果は感じられる。 ・次期学習指導要領の周知や「特別の教科 道徳」「指導と評価」等についても今年度の研修を行う中でそれらの重要性を再認識することができた。今後取組んで行きたい。 ・今後もメール等のやり取りを充実させ会議の精選に取り組む。

検証項目	(3) 小・中一貫教育校としての教育活動	
	○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	にしみたか学園実施方策の推進	
取組	・組織体制及び校務分掌組織等 ・教員の指導体制 ・児童・生徒の交流活動 ・小・中一貫カリキュラム ・特色ある教育活動	
成果		課題と改善方策
・にしみたか学園実施方策に則り推進した。 ○組織体制及び校務分掌組織等 児童会生徒会の担当者の校内分掌に差異はあるが取り組んできている。 ○教員の指導体制 後補充講師や時間の調整をしながら「乗入れ授業」を計画通り展開することができた。 ○児童生徒の交流活動 計画通り行った ○小・中一貫カリキュラム 見直しを行った。学園研究において毎回確認をしている。 ○特色ある教育活動 CS委員会等のサポートを受けながら実施できた。		・ねらいを明確にして実施していく。 ・「乗入授業」については、学園の課題に対応するために、来年度は、乗り入れる教科を変更し、外国語活動と英語、体育と保健体育として取り組んで行く。 ・小・中一貫カリキュラムは、市作成のカリキュラム完成を受ける準備をしていたが、間に合わないため学園カリキュラムのみ直しを行った。 ・特に小学校の「職場訪問」「漢検」、中学校の「職場体験」「英検」はCS委員会のサポートの成果が感じられる。

検証項目	(4) 児童・生徒の学力・健全育成	
	○ 児童・生徒の学習意欲 ○ 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○ 小学校と中学校の評価の一貫性 ○ 不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力	・基礎・基本の定着と学習習慣の確立
	健全	・礼儀やマナーの定着、自分で判断する力の育成
取組	学力	・9年間の一貫カリキュラムに基づく指導 ・「三鷹学びのスタンダード」「にしみたかスタンダード」に基づく指導 ・「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの指導 ・家庭学習の習慣化
	健全	・「三鷹市いじめ防止対策推進基本方針」を踏まえ、いじめ対策年間計画に基づいた取組の実施 ・「三鷹市校内通級教室実施方策」に基づき「校内通級学級」の準備およびユニバーサルデザインを意識した支援の充実
成果		課題と改善方策
学力 ・学園研修は、分科会を3年間固定したため、お互い本音でより良い授業づくりのため切磋琢磨できた。 ・「主体的・対話的で深い学び」に基づき、全教員が同じ視点で指導案の作成や指導に臨むことができた。 ・家庭学習の習慣化 「学園評価」の「学ぶ姿勢をつくる」項目からは、ゲームやスマートフォンなどが学習を侵害していることはないという結果だった。 ・平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、学園小学校は都の平均よりも5.4ポイント上回った。中学校は0.4ポイント上回っている。		学力 ・学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果を授業改善推進プランに反映させ、日々取り組んで行く。 ・教員の指導力向上を目指して研修の機会や課題にあった研修を企画したり紹介したりしていく。 ・「学園評価」の「学ぶ姿勢をつくる」項目からは、特に「学習の計画性」に関する質問の肯定的評価が低い。また、「学校以外での学習時間の確保」に関する質問では、特に中学2年生の肯定的評価が低い⇒計画の一層の具体的指導、地域人財の協力をいただく放課後の学習指導等に力をいれていく。⇒部の活動時間にルールを設定し学習時間の確保に努める。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において中学校では、社会科、数学科は都平均を下回った。授業改善学習方法の指導等重点的に取り組む。

健全育成	健全育成
・「三鷹市いじめ防止対策推進基本方針」を受け、にしみたか学園三校の「学校いじめ防止基本方針」を作成するとともに「いじめ防止年間計画」に基づいた取組を実施した。特に6月、11月、2月の「ふれあい月間」では、全教育活動においていじめ防止の取組をおこなった。いじめの予防、早期発見、早期発見ができた。 ・第二小学校に設置される校内通級教室は、「さくら木学級」と名前も決まり、準備を進めている。 ・ユニバーサルデザインを意識した支援は教職員に浸透しつつある。特に「色いろ通信」を養護教諭部会で発行し色覚異常についての配慮やカラーユニバーサルデザインについて学ぶことができた。	・いじめ「0」をめざして取り組んで行く。 ・スマートフォンやライン等をきっかけにしたいじめ等があるので特にSNSに対する児童・生徒、保護者の意識を醸成していく。 ・「校内通級教室」の準備は小学校中心の取組になってしまった。 ・引き続きユニバーサルデザインを意識した支援の充実に取り組んで行く。 ・「合理的配慮」に関して教職員の意識を高め、積極的に取り組んでいく。

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営
	○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 ○ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流 ○ その他
目標	・コミュニティ・スクール委員会の活性化 ・保護者、地域住民の学園参画の推進
取組	・組織の見直しを図る。 ・熟議を充実させ、コミュニティ・スクールとしての活動の活性化を目指す。 ・学園の情報発信、コミュニティ・スクール委員会の広報の活発にする。 ・学校行事等における保護者、地域住民の来校人数の増加を目指す。 ・学校評価に基づく課題への取組（家庭学習、整理整とん）・学園、学校サポート活動の充実
成果	課題と改善方策
・組織は、見直しを行った。 ・CS委員会では、話し合い、熟議を毎回設定し意見交換を密に行った。 ・「コミュニティ・スクール委員会たより」は2回カラー印刷で発行できた。 ・「コミュニティにしみたか」には、学園コーナーを毎月設定しCS委員がメッセージを掲載した。また行事計画等毎月掲載し、広く地域に広報することが出来た。 ・学園公開で行った「スタンダード(家庭版)」調査へは多くの保護者等に参加いただけた。また、二小に「CSサロン」を開き、茶話会の場とし広報に寄与できた。 ・保護者、地域住民の来校人数は在籍人数に合わせて増加している。 ・学園学校サポート活動は充実できた。特に中学校において行事の際に小学校の保護者のサポートをいただくことができた。また英検、漢検はCS委員の協力のもと実施できた。	・「コーディネート部」の役割が負担過剰ではなかったか、という反省がある。 ・委員の欠席が多い会もあった。承認事項内容の事前配布を徹底していく。 ・学園ホームページの更新は、「コミュニティ・スクール委員会たより」の掲載に留まり課題である。 ・「CSサロン」は早い時期での広報を行う。 ・家庭学習の時間については、受験期の中3は別として、学年が上がるにつれて十分な時間の確保が難しくなっている、との学園評価結果。学習会や家庭で取り組むことを毎日帰りの学級指導で確認する等の手立てを講じていく。 ・適材適所のサポートを継続していく。

平成 29 年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (5) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと ・CS委員会作成の「にしみたか学園 行事と学習のスタンダードカレンダー」を保護者・地域に配布し好評である。 ・次期学習指導要領への対応を学園研究会等を通して、学園全体で取り組んでいる。 ・児童・生徒代表者会議では、具体的な取組についての熟議が行われ、活発化した。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること ・「学びのスタンダード(家庭版)」の「家庭での学習時間を確保」 特に学年が上がるにつれ時間確保がされていない状況が学園評価報告でも明らかになった。 ・小学校における「校内通級教室」の設置 ・次期学習指導要領の対応
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策 ・全学年において学習の習慣化、計画性を指導していく。 見通しをもった学習計画、帰りの学級指導の時間に、毎日の宿題の確認や帰宅後の段取りを各自に確認させる指導を行う。 ・特別支援教育の推進 校内委員会の定期開催 ・特別支援教育の理解と方法を学ぶ研修会開催 ・学園研究会の充実 特別の教科 道徳をテーマとする。 ・乗入れ授業の充実 中学校英語教員が小学校の外国語活動に、小学校教員が中学校英語への乗入れ授業を開始する。